



“地域のことは地域で考えよう”

2019年1月30日

## おきぎん県内景況・速報

### 2018年12月

### —県内景況は、拡大している—

#### ■個人消費

スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

家電卸出荷額は前年同月を上回り、新車販売台数は下回る。

#### ■建設関連

公共工事請負金額は前年同月を下回る。

生コン、セメントはともに前年同月を下回る。

#### ■観光関連

入域観光客数は前年同月を上回り、観光施設入場者数も上回る。

ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回る。

#### ■企業倒産

件数、負債総額はともに前年同月下回る。

### 現場主義とお客様からの信頼

※お気づきの点、不明な点などがございましたら、下記までご連絡ください。

(株)おきぎん経済研究所

TEL:098-869-8711 FAX:098-869-2200

おきぎん県内景況・速報(2018年12月分)

◎2018年12月 おきぎん「カトレア」景況図



◎概況：県内景況は、拡大している。

12月の県内景況は、個人消費関連では、スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回りました。百貨店売上高は、前年同月を下回りました。耐久消費財である家電卸出荷額は、前年同月を上回りました。新車販売台数は、前年同月を下回りました。

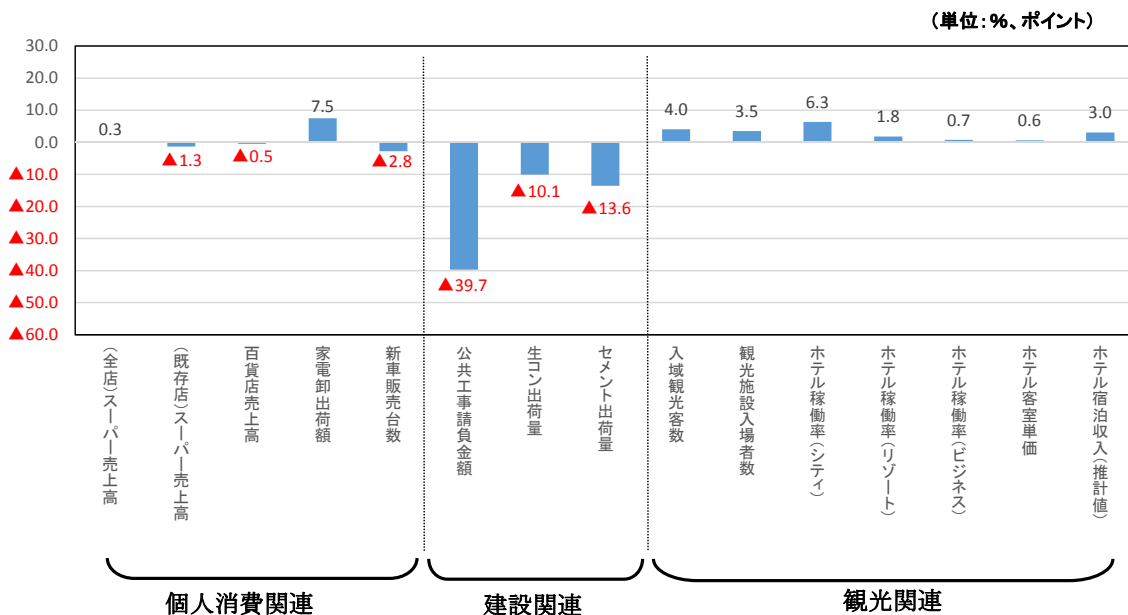
建設関連では、公共工事請負金額は、国や沖縄県などによる発注工事の減少などで前年同月を下回りました。建設資材である生コン、セメントはともに前年同月を下回りました。

観光関連では、入域観光客数は3ヵ月連続で前年同月を上回り、観光施設入場者数も前年同月を上回りました。ホテル稼働率はシティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回りました。ホテル客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入(推計値)も上回りました。

このような状況に鑑みて、個人消費や建設関連が概ね堅調であり、観光関連では堅調な動きが継続していることなどから「県内景況は拡大している」と景気判断を据え置きました。

(2014年2月の上方修正後から59ヵ月連続で判断維持)

主要景気指標前年同月比



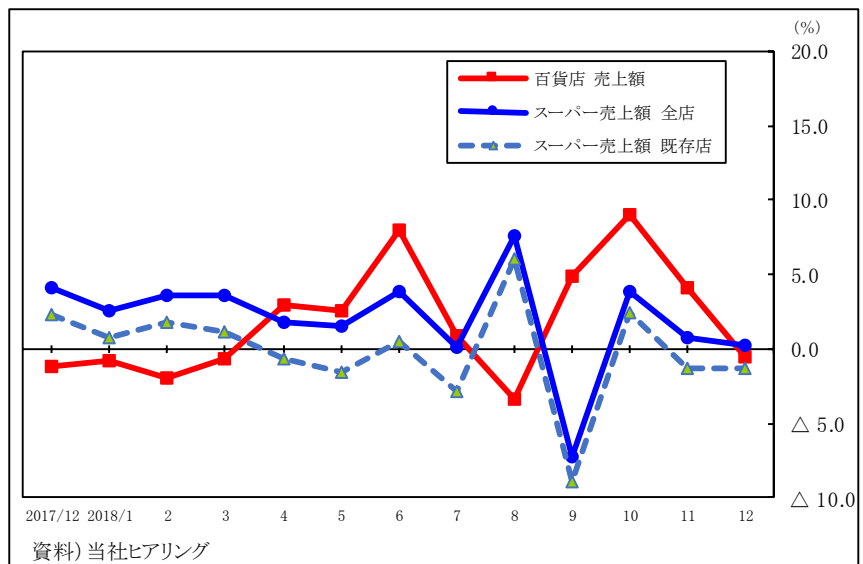


■ 個人消費： (やや良い)

① スーパー・百貨店売上高…スーパー売上高は、全店ベースは前年同月を上回り、既存店ベースは前年同月を下回る。百貨店売上高は前年同月を下回る。

単位:%

	スーパー売上額		百貨店 売上額
	全店	既存店	
2017/12	4.1	2.3	△ 1.2
2018/1	2.6	0.8	△ 0.8
2	3.6	1.8	△ 1.9
3	3.6	1.2	△ 0.6
4	1.8	△ 0.7	3.0
5	1.6	△ 1.5	2.6
6	3.8	0.5	8.0
7	0.1	△ 2.9	0.9
8	7.6	6.1	△ 3.3
9	△ 7.2	△ 8.9	4.9
10	3.9	2.4	9.0
11	0.8	△ 1.3	4.1
12	0.3	△ 1.3	△ 0.5



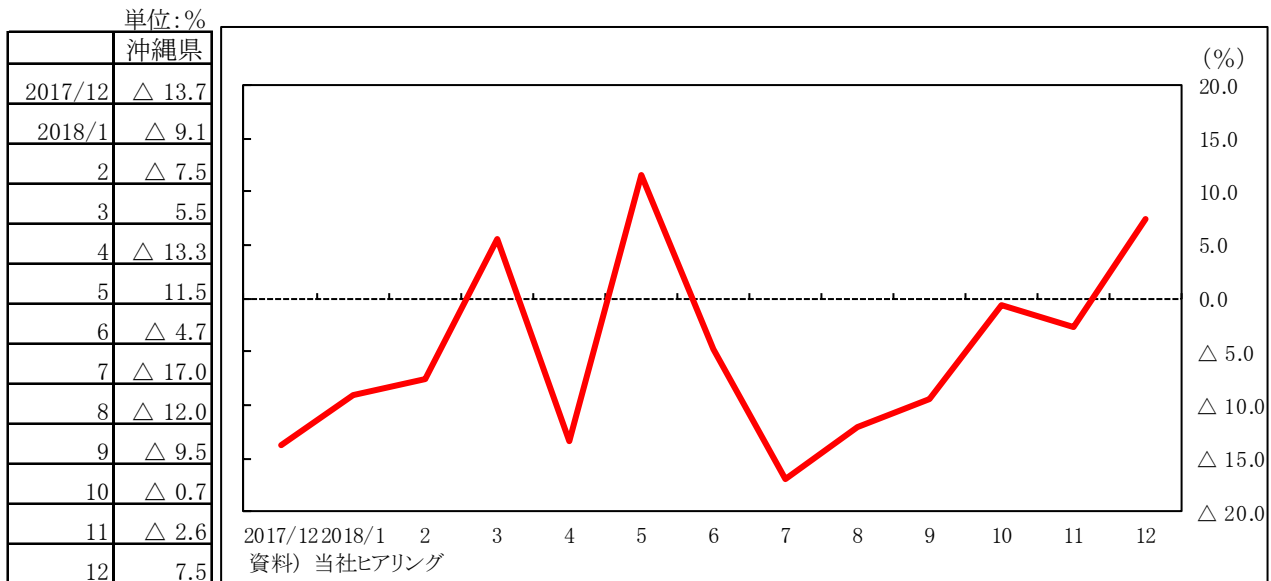
注) 前年同月比

12月の個人消費関連では、スーパー売上高「全店ベース(前年同月比 0.3%増)」は、新規出店効果などにより、「食料品(同 0.8%増)」の売上が伸び、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

「既存店ベース(同 1.3%減)」は、前年に比べ気温が高く推移したことなどから、冬物商材を中心に売上が伸び悩み、2ヵ月連続で前年同月を下回りました。品目別では、ウェイトの高い「食料品(同 1.0%減)」は、鍋物関連の商材など、全般的に売上が伸びず、前年同月を下回りました。「衣料品(同 1.2%減)」は、前年に比べ気温が高く推移した影響などから、冬物商材を中心に売上が伸びず、前年同月を下回りました。「家庭用品(同 1.9%減)」も、寝具などの売上が伸びず、前年同月を下回りました。

百貨店売上高は、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました(同 0.5%減)。内訳をみると、ウェイトの高い「衣料品(同 9.6%減)」は、販促企画を開催するも、前年に比べ気温が高く推移したことにより「紳士服(同 3.6%減)」、「婦人服(同 13.6%減)」、「子供服(2.6%減)」などで冬物商材の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。靴、バッグなどの「身の回り品(同 4.8%減)」は、売り場面積が縮小したことなどから売上が減少し、前年同月を下回りました。また、「食料品(同 2.5%減)」は、お歳暮需要が好調だったものの、精肉や鍋物関連商材の売上が伸びず、前年同月を下回りました。一方、「雑貨(同 15.6%増)」は、売り場のリニューアル効果や、インバウンド需要の増加などにより、前年同月を上回りました。

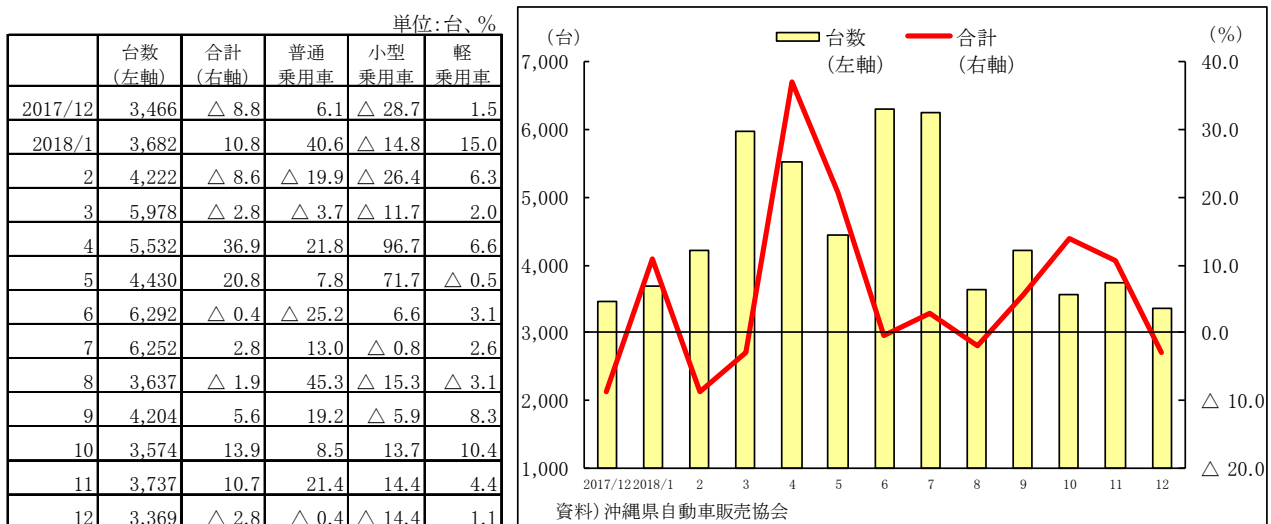
② 家電卸出荷額…家電卸出荷額は7ヵ月ぶりに前年同月を上回る。



注) 前年同月比

家電卸出荷額は、冷蔵庫、洗濯機などの売上が伸び、7ヵ月ぶりに前年同月を上回りました(同 7.5%増)。品目別では、「テレビ(同 1.0%減)」は、高価格帯商品の売上が伸び悩み、前年同月を下回りました。一方、「VTR(同 4.3%増)」は、4Kチューナー内蔵型の録画機が好調に推移し前年同月を上回りました。また、「洗濯機(同 29.3%増)」、「冷蔵庫(同 22.4%増)」は、省エネタイプや大型タイプの買い替え需要が好調に推移し、前年同月を上回りました。また、「エアコン(同 1.1%増)」は、旧型商品の売上が伸び、前年同月を上回りました。

③ 新車販売台数…新車販売台数は、4ヵ月ぶりに前年同月を下回る。



注) 前年同月比

注) 普通乗用車及び小型乗用車は登録車、軽乗用車は届出車の数値を表示。

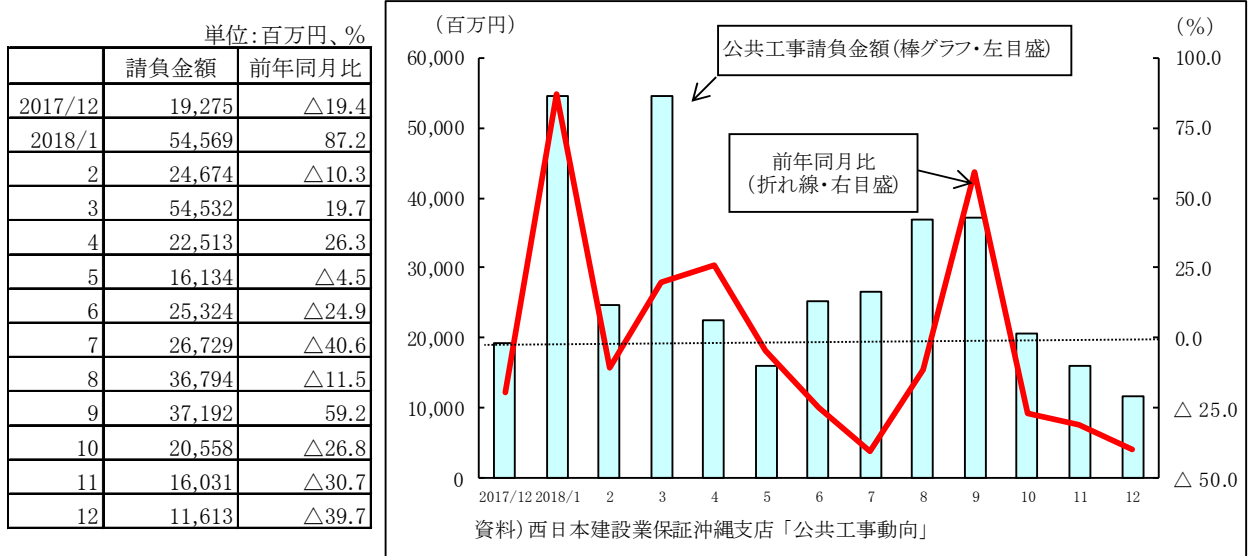
新車販売台数は、全体で3,369台(同 2.8%減)となり、4ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。車種別では、「普通乗用車(同 0.4%減)」、「小型乗用車(同 14.4%減)」は、レンタカー需要が減少し、普通乗用車は6ヵ月ぶり、小型乗用車は3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。一方、「軽乗用車(同 1.1%増)」は、自家用車需要が好調だったことから、4ヵ月連続で前年同月を上回りました。

※普通乗用車及び小型乗用車は登録ベース、軽乗用車は届出ベースの数値を合算。



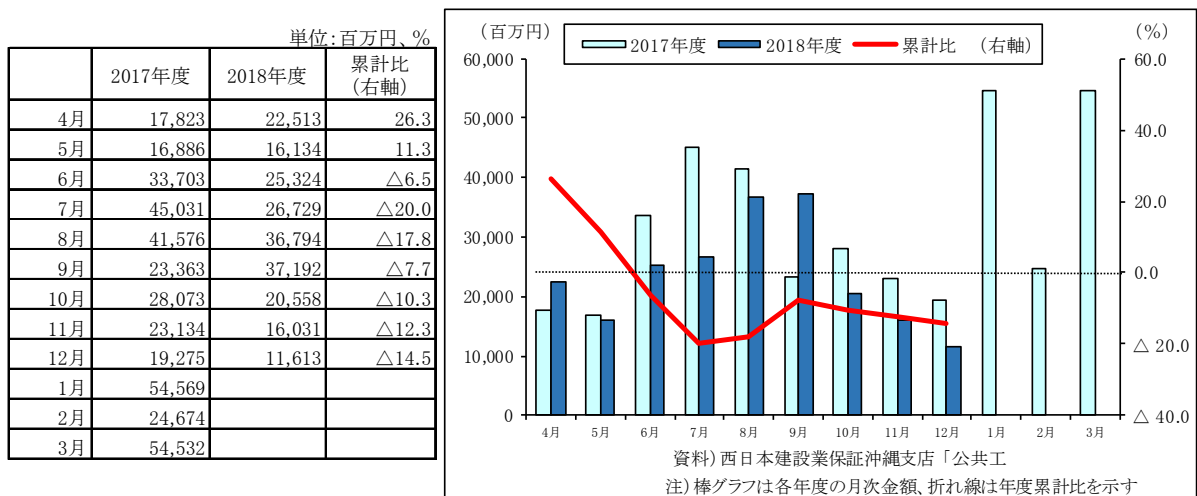
■ 建設関連： (良い)

①公共工事・・・公共工事請負金額は前年同月を下回る。



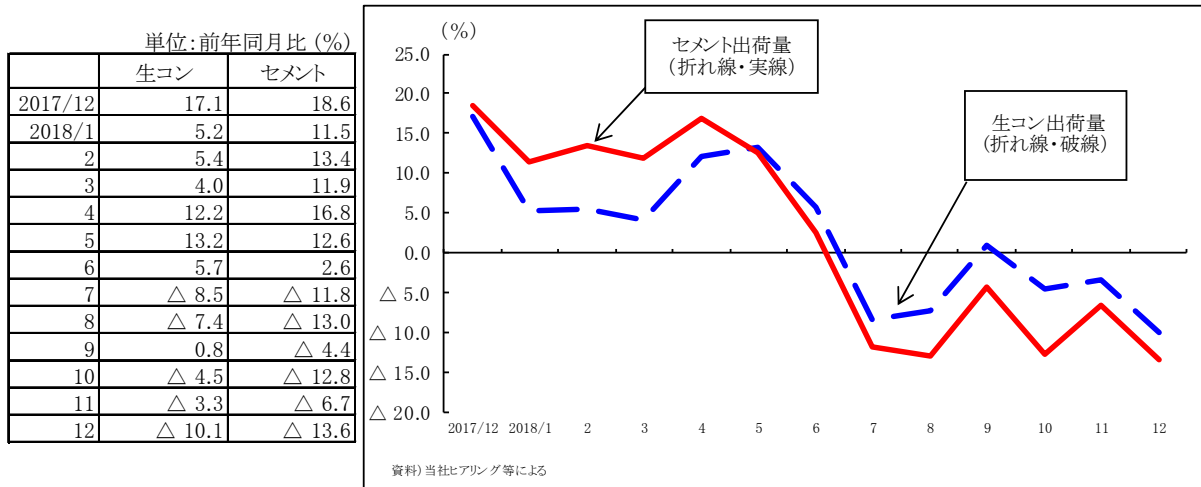
12月の公共工事請負金額は、前年同月比39.7%減の116億1,300万円となりました(3ヵ月連続減)。発注者別でみると、「独立行政法人等(同160.4%増)」は前年同月を上回りましたが、「国(同37.1%減)」のほか、「沖縄県(同47.6%減)」や「市町村(同20.8%減)」、「その他の公共的団体(同90.1%減)」は下回りました。

【参考】公共工事(年度累計)・・・公共工事請負金額は前年同期を下回る。



今年度累計値では、14.5%減となっています。(上記折れ線グラフ)

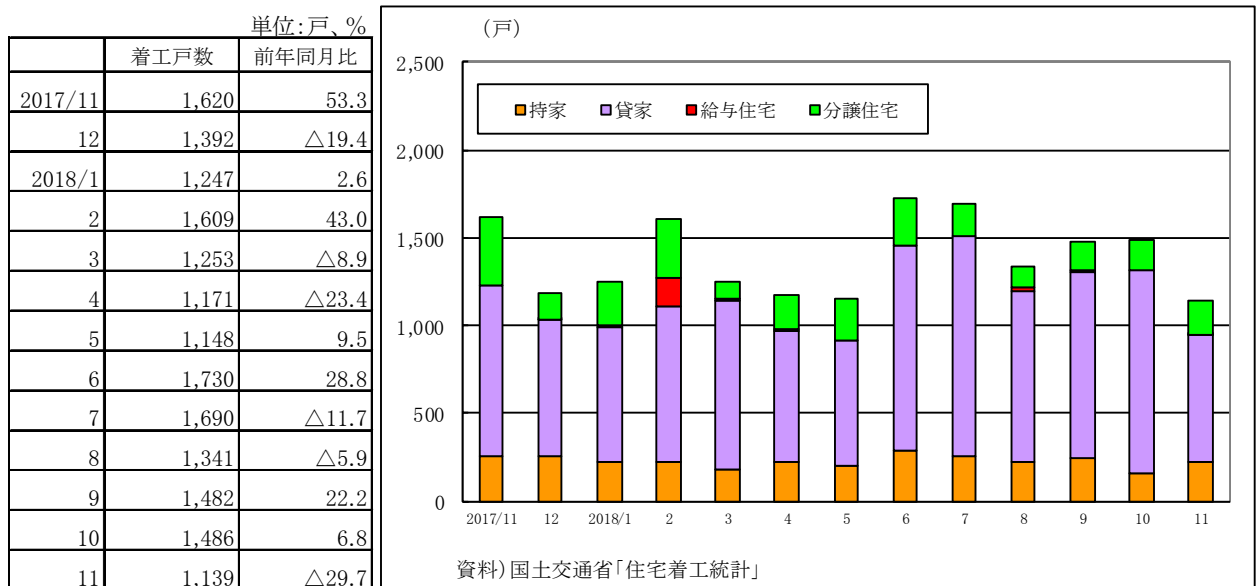
②建設資材・・・生コン、セメントはともに前年同月を下回る。



(注1) セメント出荷量は、速報値につき、確報にて修正される場合がある

**建設資材関連**では、生コンの出荷量は10.1%減と3ヵ月連続で前年同月を下回りました。内訳では、公共工事向け出荷が前年同月より15.3%下回り、民間工事向け出荷も7.2%下回りました。セメント出荷量は13.6%減と6ヵ月連続で前年同月を下回りました。

【参考】住宅投資(11月)・・・着工戸数は前年同月を下回る。

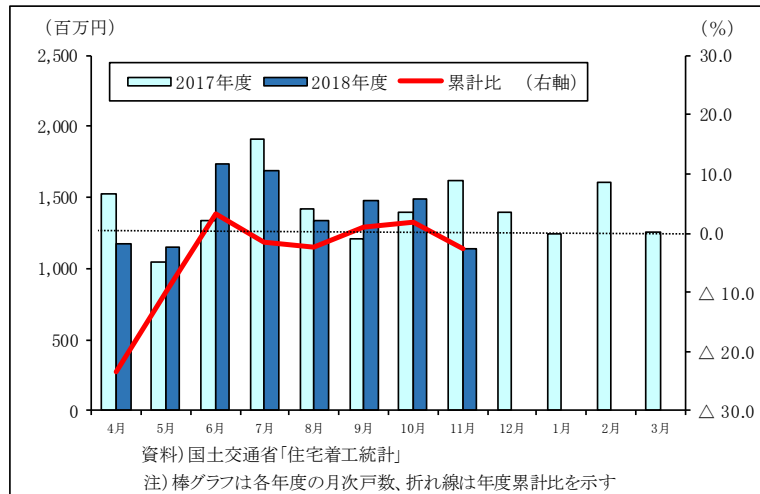


**新設住宅着工戸数(11月)**は、全体で前年同月比29.7%減の1,139戸と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。利用別戸数を見ると、ウェイトの高い「貸家(同25.3%減)」のほか、「持家(同16.2%減)」や「分譲住宅(同51.5%減)」は前年同月を下回りました。一方、「給与住宅」は上回りました。

**【参考】住宅投資（年度累計）・・・11月までの着工戸数は前年同期を下回る。**

単位:百万円、%

	2017年度	2018年度	累計比 (右軸)
4月	1,528	1,171	△23.4
5月	1,048	1,148	△10.0
6月	1,343	1,730	3.3
7月	1,915	1,690	△1.6
8月	1,425	1,341	△2.5
9月	1,213	1,482	1.1
10月	1,392	1,486	1.9
11月	1,620	1,139	△2.6
12月	1,392		
1月	1,247		
2月	1,609		
3月	1,253		



年度累計で見ると、11月までの累計値で2.6%減となっています。



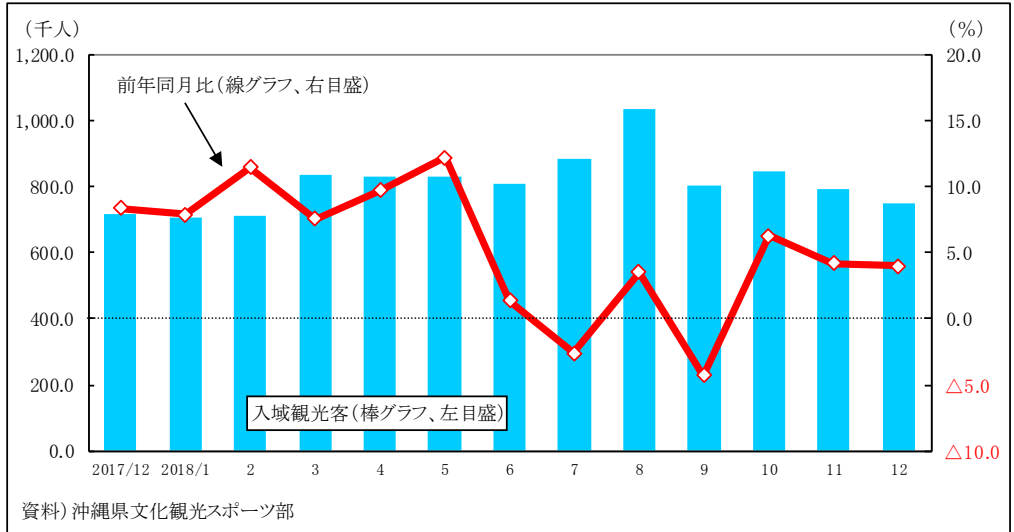
■観光関連： (やや良い)

①入域観光客数 (国内客・外国客の合計)・・・3ヵ月連続で前年同月を上回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2017/12	718.5	8.4
2018/1	704.3	7.9
2	711.4	11.5
3	r 837.4	r 7.6
4	833.2	9.7
5	830.9	12.2
6	809.7	1.4
7	884.1	△ 2.6
8	1,037.9	3.5
9	801.5	△ 4.3
10	849.3	6.3
11	r 795.2	r 4.2
12	747.5	4.0

※外国客は乗務員等を含む

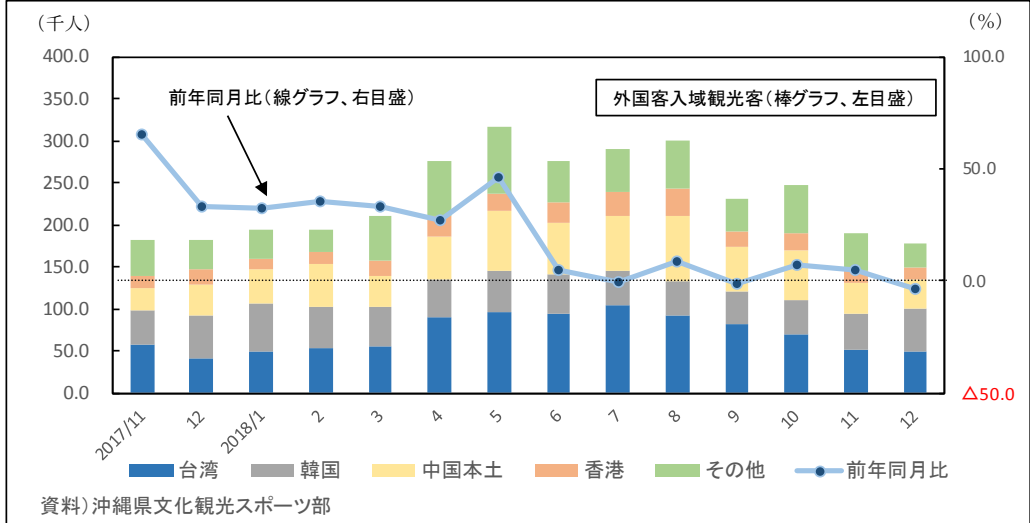


外国客 入域観光客数・・・3ヵ月ぶりに前年同月を下回る。

単位:千人、%

	入域 観光客	前年 同月比
2017/11	182.4	65.5
12	183.1	33.5
2018/1	194.4	32.1
2	194.8	35.2
3	210.3	32.8
4	276.8	27.2
5	316.3	45.9
6	275.1	5.2
7	290.8	△ 0.6
8	300.0	8.8
9	230.5	△ 1.3
10	246.5	7.5
11	r 191.1	r 4.8
12	177.2	△ 3.2

※外国客は乗務員等を含む



12月の入域観光客数は、29,000人多い747,500人(前年同月比4.0%増)となり、3ヵ月連続で前年同月を上回りました(12月としては過去最高)。

内訳をみると、「国内客(同6.5%増)」は570,300人と、航空会社の先行割引航空券やダイナミックパッケージの販売が良好だったことや、年末年始の旅行需要の高まりがあったことなどから、3ヵ月連続で前年同月を上回りました。

他方、「外国客(同3.2%減)」は、177,200人と3ヵ月ぶりに前年同月を下回りました。年末年始の旅行需要の高まりや、航空路線の拡充があったものの、クルーズ船の寄港が減少したことなどから、前年同月を下回りました。「台湾(同15.1%増)」「韓国(同5.2%増)」「中国本土(同9.8%減)」「香港(同17.1%減)」

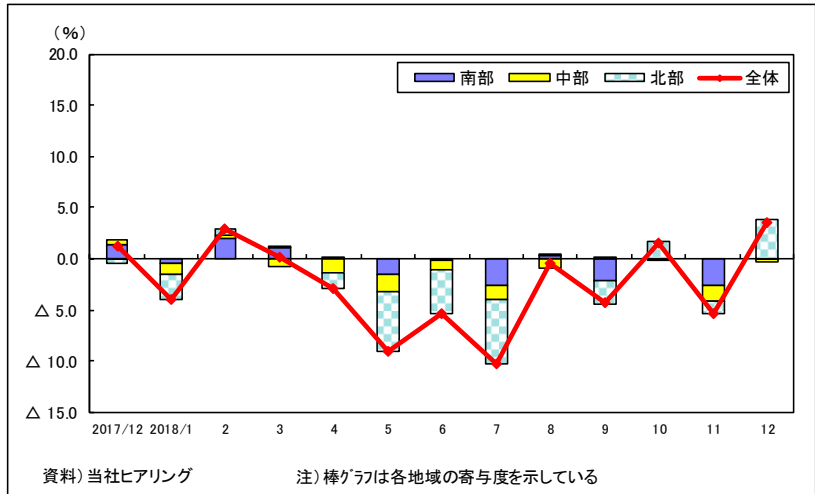
※乗務員等を除く2018年12月実績=全体735,600人(同5.4%増)、外国客165,300人(同1.6%増)、国内客は変わらない。



② 観光施設入場者数・・・2ヵ月ぶりに前年同月を上回る。

単位: %

	入場者数(前年同月比)			
	全体	南部	中部	北部
2017/12	1.2	r 3.3	3.2	△1.2
2018/1	△ 4.0	△1.2	△ 7.7	△5.1
2	2.9	5.6	1.8	1.2
3	0.2	2.6	△ 7.0	0.1
4	△ 2.9	0.1	△ 11.3	△3.1
5	△ 9.0	△ 4.0	△ 14.6	△11.7
6	△ 5.3	△ 0.5	△ 8.5	△8.4
7	△ 10.3	△ 7.8	△ 12.8	△11.3
8	△ 0.5	1.0	△ 7.5	0.1
9	△ 4.3	△ 5.9	1.0	△4.2
10	1.5	△ 0.6	0.04	3.6
11	r △ 5.4	r △ 6.1	r △ 12.3	r △2.8
12	3.5	0.0	△ 2.7	8.7



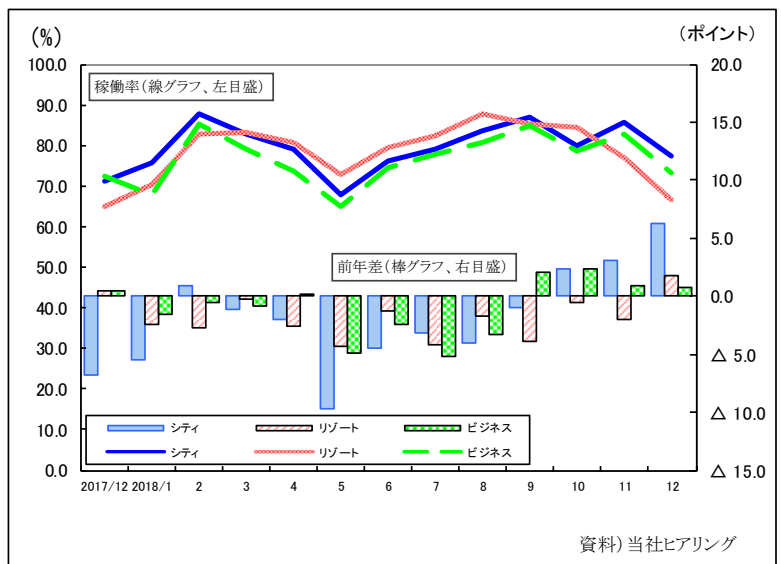
※調査対象施設数＝南部6、中部6、北部5施設  
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

観光施設入場者数は、全体で前年同月より3.5%増加(2ヵ月ぶり)しました。地域別にみると、北部にある観光施設は同8.7%増と2ヵ月ぶりに前年同月を上回り、中部は同2.7%減と2ヵ月連続で前年同月を下回りました。南部は前年同月と同水準となりました。

③ ホテル稼働率・・・シティホテル、リゾートホテル、ビジネスホテルのすべてで前年同月を上回る。

単位: %、ポイント

	稼働率			前年同月差		
	シティ	リゾート	ビジネス	シティ	リゾート	ビジネス
2017/12	71.2	65.0	72.5	△ 6.8	0.5	0.5
2018/1	75.8	70.5	68.0	△ 5.5	△ 2.4	△ 1.6
2	87.8	82.8	85.2	0.9	△ 2.7	△ 0.5
3	82.8	83.0	79.0	△ 1.2	△ 0.2	△ 0.8
4	78.9	80.5	73.6	△ 2.0	△ 2.6	0.2
5	67.9	72.9	65.0	△ 9.7	△ 4.3	△ 4.9
6	76.0	79.5	74.4	△ 4.5	△ 1.3	△ 2.5
7	79.0	82.4	77.8	△ 3.2	△ 4.2	△ 5.2
8	83.5	87.9	80.5	△ 4.1	△ 1.7	△ 3.3
9	87.0	85.4	84.9	△ 1.0	△ 3.9	2.1
10	79.9	84.4	78.7	2.4	△ 0.5	2.4
11	85.5	76.9	82.7	3.1	△ 2.0	0.9
12	77.5	66.8	73.2	6.3	1.8	0.7



注) シティ8ホテル、リゾート18ホテル、ビジネス7ホテル

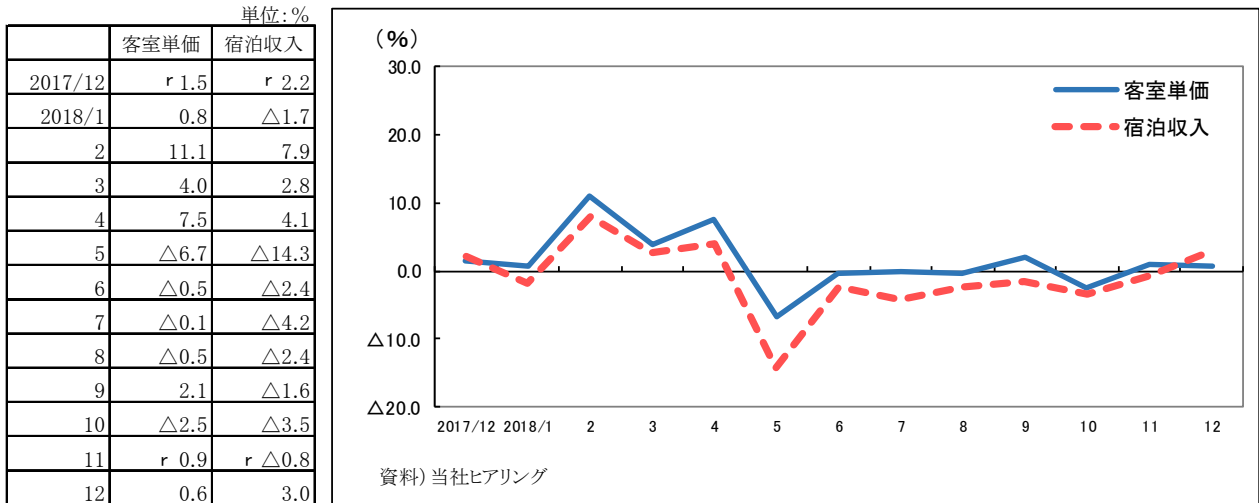
注) 2018年4月については、サンプル調査の都合上、ビジネスホテルは6ホテルとなっている。

注) 2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

県内ホテル稼働率は、シティホテルが77.5%と6.3ポイント上昇(3ヵ月連続)、リゾートホテルが66.8%と1.8ポイント上昇(12ヵ月ぶり)、ビジネスホテルが73.2%と0.7ポイント上昇(4ヵ月連続)しました。

④ ホテル客室単価・宿泊収入・・・客室単価は前年同月を上回り、宿泊収入も上回る。



※対象施設数:26施設(シティ8、リゾート18)、ビジネスは除く

※客室単価は26施設の平均値、宿泊収入は各施設の推計値の総額(稼働率及び客室単価より当社推計)

※2018年1月より、シティホテル対象施設数が変更(9⇒8)となったことから、2017年1月以降の数値を遡って改定した。

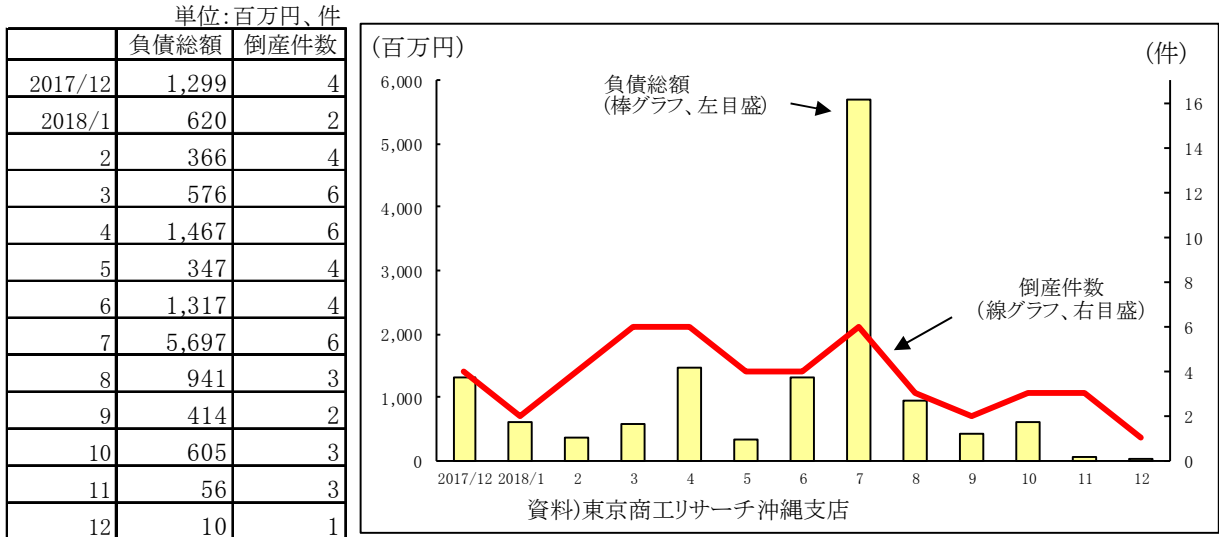
※公表後に改定する場合があります最新公表資料が確定値とする。

**ホテル客室単価**(シティ&リゾート)は前年同月比 0.6%増と前年同月を上回りました。**宿泊収入**も同3.0%増と前年同月を上回りました。



■企業倒産： (やや良い)

企業倒産・・・件数、負債総額はともに前年同月を下回る。

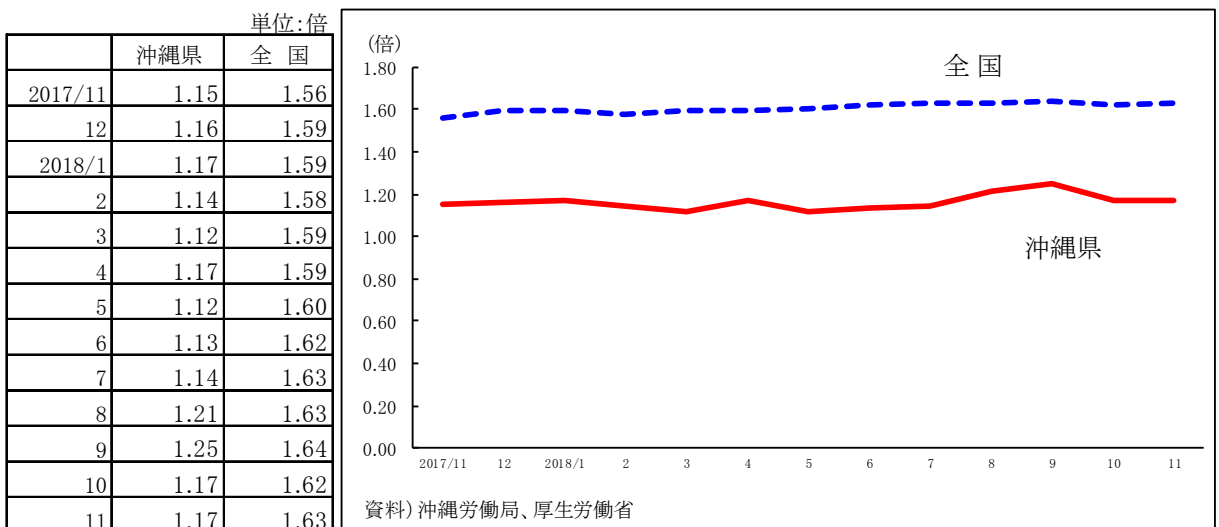


12月の企業倒産件数は、1件(うち大口倒産等は無し)となり、同75.0%減と前年同月を下回りました。  
負債総額は1,000万円となり、前年同月より99.2%減となりました。



【参考】雇用関連： (良い)

有効求人倍率(11月)・・・沖縄は前月と同水準、全国は上昇。



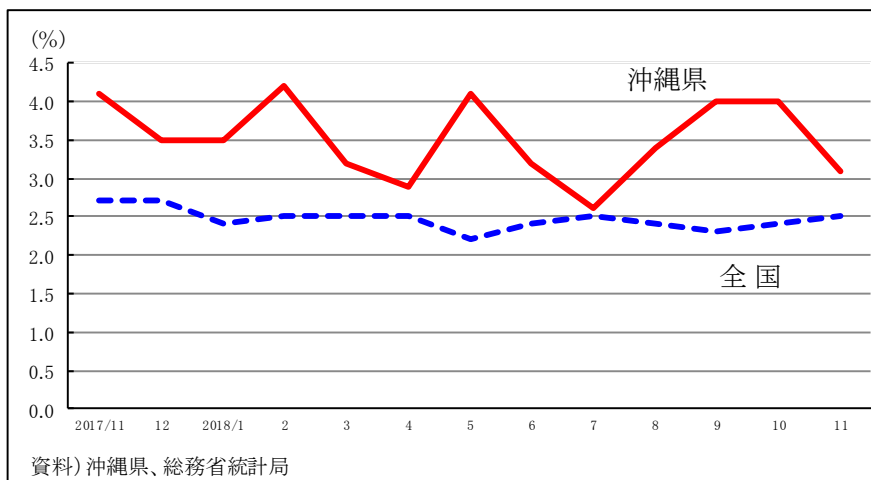
注)季節調整済

11月の雇用状況は、月間有効求人数(季節調整値)は前月比0.6%増の28,805人に対して、月間有効求職者数(同上)は前月比0.9%増の24,700人となり、有効求人倍率(季節調整値)は1.17倍となり前月と同水準となりました。

完全失業率(11月)・・・沖縄は前月より低下、全国は上昇。

	単位:倍	
	沖縄県	全国
2017/11	4.1	2.7
12	3.5	2.7
2018/1	3.5	2.4
2	4.2	2.5
3	3.2	2.5
4	2.9	2.5
5	4.1	2.2
6	3.2	2.4
7	2.6	2.5
8	3.4	2.4
9	4.0	2.3
10	4.0	2.4
11	3.1	2.5

注) 季節調整済



11月の完全失業率(季節調整値)は、3.1%となり前月より0.9ポイント低下しました。